

経済・金融
フラッシュ

鉱工業生産 24年3月 - 1-3月期は大幅減産だが、明るい材料も見られる

経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 24年1-3月期は20年4-6月期以来の大幅減産

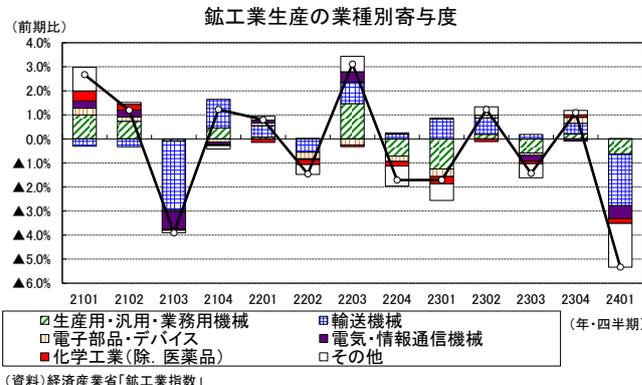
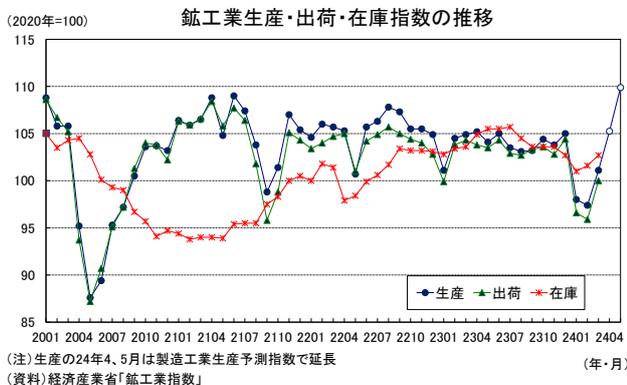
経済産業省が4月30日に公表した鉱工業指数によると、24年3月の鉱工業生産指数は前月比3.8%（2月：同▲0.6%）と3ヵ月ぶりに上昇し、ほぼ事前の市場予想（QUICK集計：前月比3.5%、当社予想は同3.3%）通りの結果となった。出荷指数は前月比4.3%と3ヵ月ぶりの上昇、在庫指数は前月比1.1%と2ヵ月連続の上昇となった。

3月の生産を業種別に見ると、不正問題発覚に伴う生産停止の影響で1月（前月比▲15.9%）、2月（同▲8.1%）と大きく落ち込んだ自動車が、工場の稼働再開を受けて前月比9.6%となったほか、フラットパネル・ディスプレイ製造装置、半導体製造装置を含む生産用機械（同11.6%）、在庫調整が進展する電子部品・デバイス（同9.2%）が高い伸びとなった。

24年1-3月期の生産は前期比▲5.4%（23年10-12月期：同1.1%）と2四半期ぶりの減産となり、四半期ベースの落ち込み幅は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて緊急事態宣言が発令された20年4-6月期（前期比▲15.1%）以来の大きさとなった。

業種別には、不正問題の影響で自動車が前期比▲17.3%の大幅減産となったほか、鉄鋼（前期比▲3.6%）、生産用機械（同▲1.9%）、汎用機械（同▲7.8%）、電気機械（同▲9.0%）などほとんどの業種が前期比でマイナスとなった。

鉱工業生産は23年度を通して一進一退の動きが続き、23年度は前年比▲2.0%（22年度は同▲0.3%）と2年連続の減産となった。



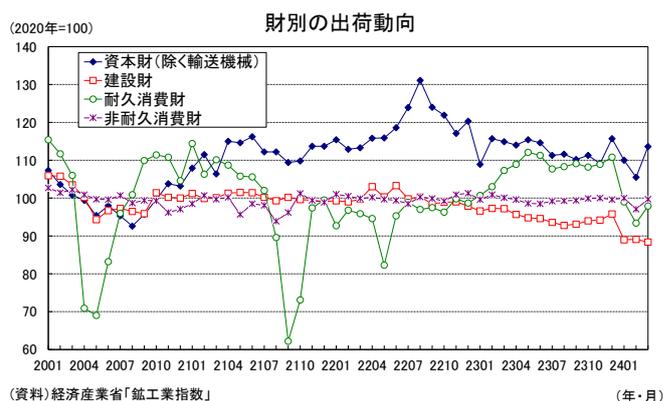
財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷指数（除く輸送

機械) は 23 年 10-12 月期の前期比 0.9% の後、24 年 1-3 月期は前期比▲2.1% となった。また、建設投資の一致指標である建設財出荷指数は 23 年 10-12 月期の前期比 1.6% の後、24 年 1-3 月期は前期比▲6.2% となった。

23 年 10-12 月期の GDP 統計の設備投資は前期比 2.0% と 3 四半期ぶりに増加した。設備投資は高水準の企業収益を背景に基調としては持ち直しているが、24 年 1-3 月期は伸びが大きく鈍化する可能性が高い。

消費財出荷指数は 23 年 10-12 月期の前期比 1.0% の後、24 年 1-3 月期は前期比▲6.0% となった。耐久消費財が前期比▲11.4%、非耐久消費財が前期比▲0.9% であった。

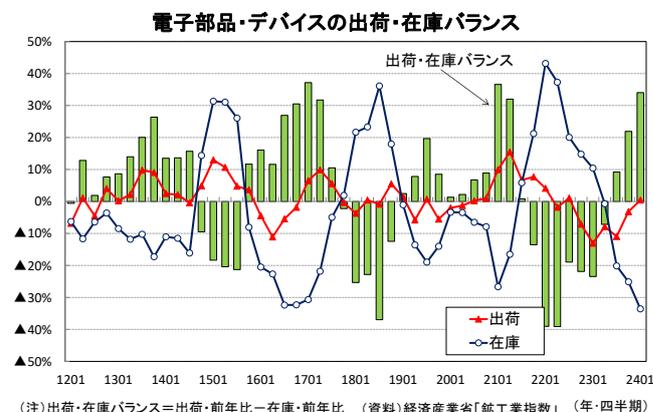
23 年 10-12 月期の GDP 統計の民間消費は前期比▲0.3% と 3 四半期連続で減少した。個人消費は、高水準の貯蓄を背景に 22 年度中は堅調に推移したが、物価高による実質所得の減少が続くなか、貯蓄率の大幅低下によって過剰貯蓄による押し上げ効果が剥落したこともあり、23 年度入り後は弱い動きとなっている。24 年 1-3 月期の民間消費は、物価高の悪影響が続く中、生産・出荷停止に伴う自動車販売の落ち込みもあり、4 四半期連続の減少となる可能性が高い。



2. 明るい材料も散見され、4-6 月期は増産へ

製造工業生産予測指数は、24 年 4 月が前月比 4.1%、5 月が同 4.4% となった。生産計画の修正状況を示す実現率 (3 月)、予測修正率 (4 月) はそれぞれ▲1.0%、▲0.2% であった。

予測指数を業種別にみると、1 月 (前月比▲9.9%)、2 月 (同▲11.5%) と大きく落ち込んだ輸送機械は、3 月に前月比 11.8% となった後、4 月が同 6.1%、5 月が同 10.5% の大幅増産計画となっている。1 月の国内生産が 0 台だったダイハツは、2 月から生産を再開しているが、生産台数は 2 月が前年同月の 8.3%、3 月が同 34.2% にとどまった。フル稼働までには時間を要するものの、足もとの水準が低いこともあり 4 月以降の生産は前月比で高い伸びとなることが見込まれる。



電子部品・デバイスの出荷・在庫バランス (出荷・前年比-在庫・前年比) は 23 年 7-9 月期に

9.2%と8四半期ぶりにプラスに転じた後、24年1-3月期は34.0%までプラス幅が拡大した。1-3月期は出荷が前年比0.4%と6四半期ぶりにプラスに転じる一方、在庫のマイナス幅が10-12月期の前年比▲25.1%から同▲33.6%へと拡大した。在庫調整の進展を受けて、電子部品・デバイスの生産は堅調に推移することが見込まれる。

また、4月に前月比21.5%（5月は同▲1.5%）の大幅増産計画となっている生産用機械は、3月の生産計画（前月比8.5%）が実績（同8.3%）とほぼ一致していた（予測調査ベース）ことを踏まえると、4月の実績も高い伸びとなることが期待できるだろう。

24年3月の生産指数を4、5月予測指数で先延ばしすると、24年4、5月の平均は24年1-3月期を8.9%上回る。実際の生産の伸びは計画を下回る傾向があることを考慮する必要があるが、自動車の挽回生産、電子部品・デバイスの在庫調整の進展、半導体関連需要に支えられた生産用機械の大幅増産など、明るい材料がみられることから、24年4-6月期の生産は1-3月期の落ち込みを取り戻す高い伸びとなることが予想される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません